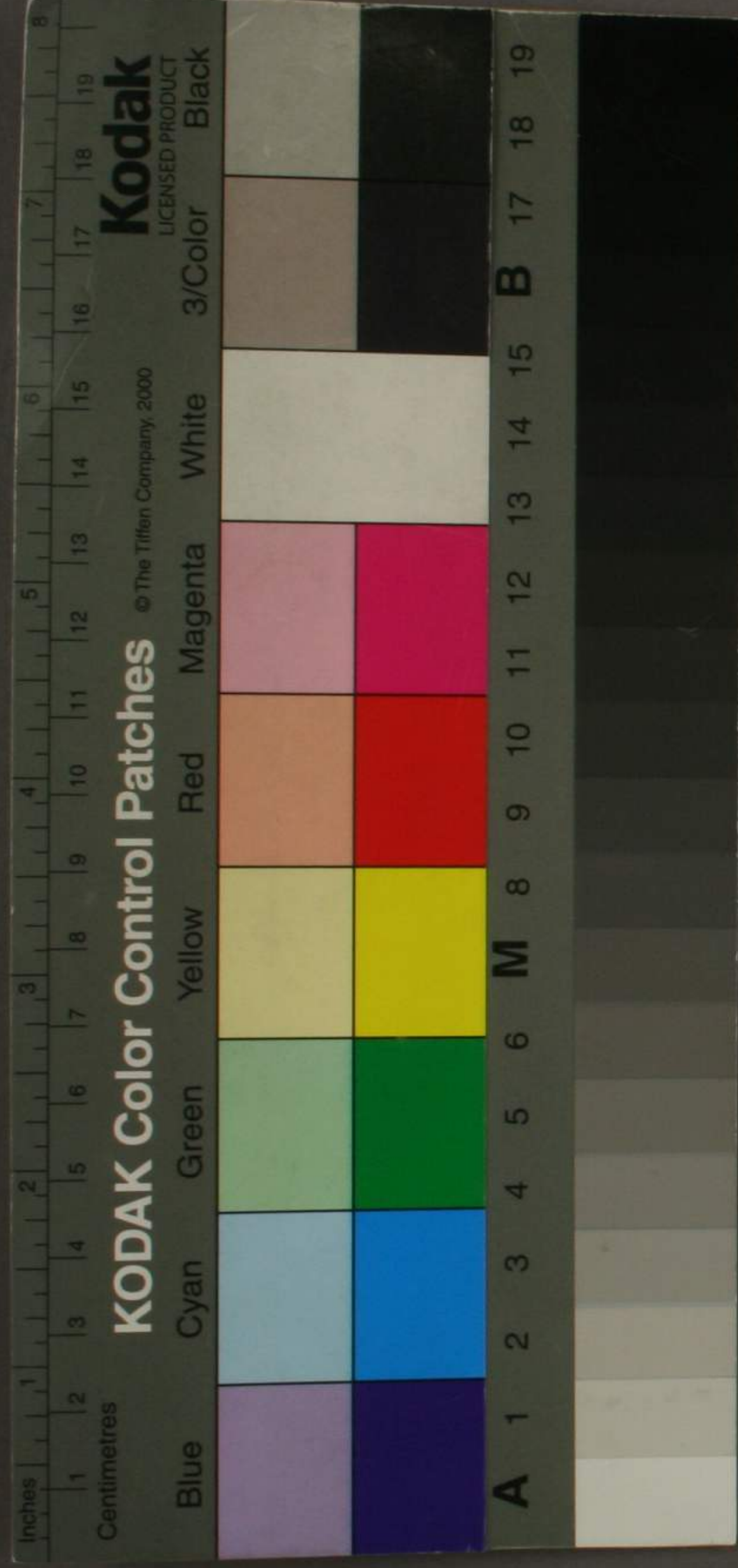




門 14 呂 4
1761
卷 1-6

國幸

武藏堅乃宏きねんあま筑波の
影をききもまをくし峰のそははく
まの影にふりまもたしき海川に
つゝあめ流れしう海浪勢あり
枝をききしう江都の名不為
江戸崖の勢り流るは江戸舞るは
迹を結びて全の軸方二十三隅の

江戸名所記

江戸名所志 一
少遊を了しあふはる鄙人の
故より温故新き山和く今より先
温故より新き山和く今より先
江戸破り子と云
青享保壬子梅天上院八日
江都神田御林崔下菴沾源叙



新編江戸砂子温故誌凡例

○凡編纂乃序次新古に拘はる御城を始に
江都の中央ありて方角茲より計れ故より首巻ハ
先武陽大意思論一次に御城を始として御外
曲輪乃内より終第二江城乃東浅草橋場を始
下谷千住より終第三江城の良湯島谷中より始
駒込小石川に終第四江城の豊牛込四谷より始
赤坂渋谷より終第五江城の南芝西久保より始
品川目黒より終第六河東深川本所より始
○龜戸隅田川真間に終
○凡條毎に先大意派記一神社乃稲座並跡併記

草創開山名所古跡ハ其來歴を記ス

○凡方角ハ其所ニに圖ハハ大意以記ス

○凡諸大名御旗本沙屋敷ハ武鑑ヲ攘至所小
路乃各目ハ町程に攘りて省ク

○凡古麻子ハ云工商ハ部ハ江府益鹽花ハ其
其所一史ナリ以周ク古書に攘りて省之

○凡古麻子ハ云茶思此名物ト云ク乃其財ハ
際限ナリ以周ク省ク

○凡真田中ノ領列島御郡ナリト云テモ
武鑑に攘りて直加に記して昔ノ所

天孫志ト云

○武藏國大意

人皇十二代皇行天皇四十年に日本武事東夷征伐沙彌降
乃時移又の降ハ武具を藏りてハ神を奉り乃ハ武具ト
藏リ國ナリト云テ武藏國ト号ス

倭本紀 武藏國秩父嵩者其勢如勇者怒立日本武事
美此山奉為東征祈禱以共具納埋岩藏故曰武藏國
以武具指置之儀訓年佐志也

大上ノ國 二十二郡田畑百十六万余石 四方五日半

○豐嶋郡 江戸近在 ○荏原郡 品川より西ナリ

○葛飾郡 本所前田ノ少 板戸幸日ノ家ヲ ○攝津郡 川崎金川
ノ少

○足立郡 千住前加藤ノ 蔵浦和ノ大ニ色 ○狭義郡 攝津の基ニ
郡後ハ非ナリ

埼玉郡 和名越谷 埼玉 ○多磨郡 和名入
 大里郡 和名入 埼玉 ○入間郡 川越 和名入
 男衾郡 和名比企 埼玉 ○新座郡 和名新座 埼玉
 榛沢郡 和名入 埼玉 ○高野郡 府中 和名入
 児玉郡 和名本郷 埼玉 ○秩父郡 和名秩父 埼玉
 比企郡 和名比企 埼玉 ○那賀郡 和名那賀 埼玉
 幡羅郡 和名幡羅 埼玉

江戸砂子温故名跡誌卷之一 油凉纂緝

一 御曲輪之内 大際

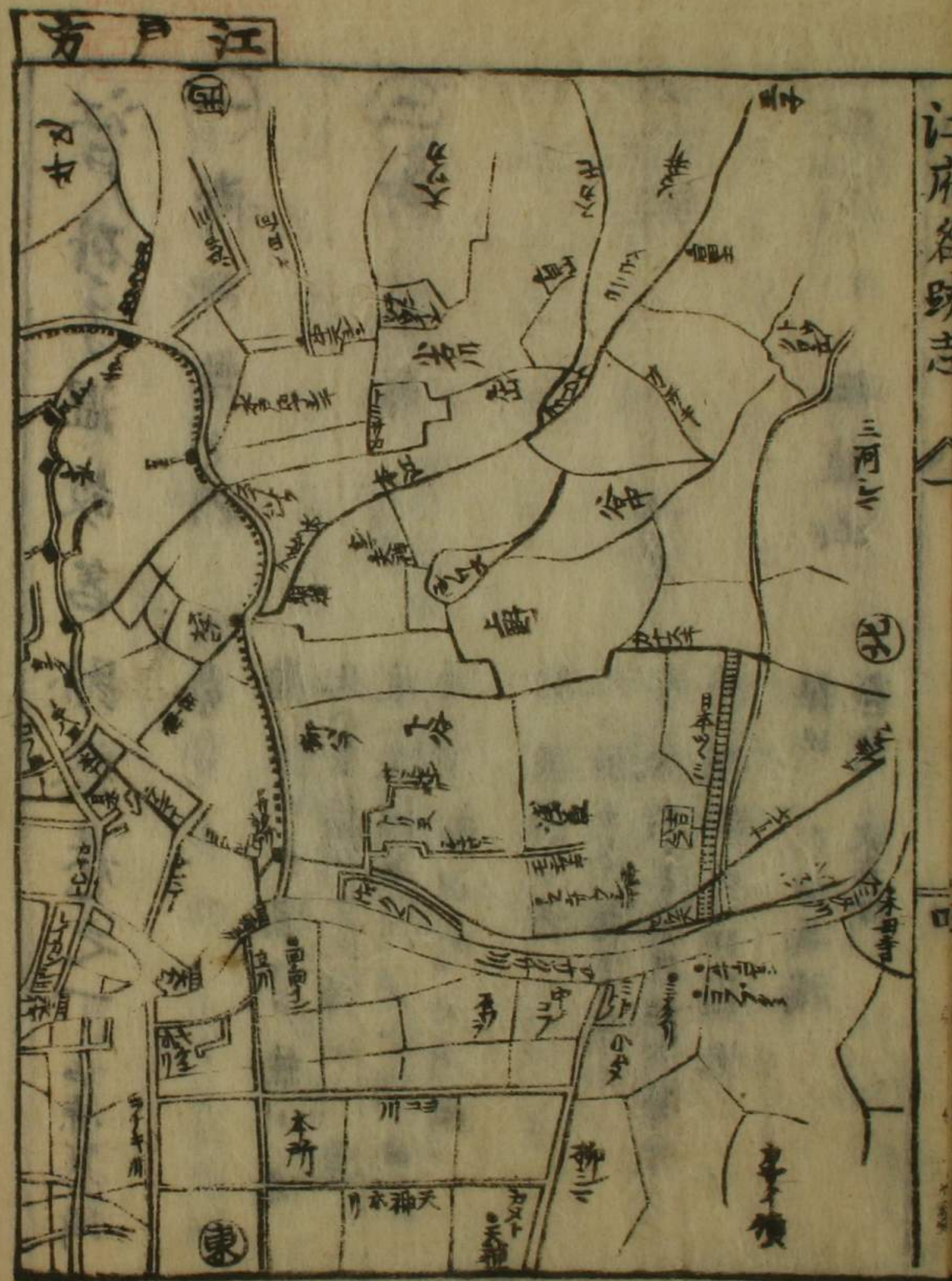
二 御外曲輪 河北

三 同 河南

四 同 御城西

南八限日本橋江戸橋川通
 北八限河原臺神田川通
 東八限浅草川通小網町
 西八限飯田町小河所
 南八限芝口橋
 北八限日本橋茅場町
 東八限吳岸嶋鉄炮洲築地
 西八限御内曲輪堀
 榎田 永田馬場
 新町 番町





角略圖



豊嶋郡 とよしま 岐田領江戸

風土記云

或荏土

公穀五百九十二束 三宇田
假粟三百二十七石三毛田

貢牛濱荻阿無見興呂伊等充左右馬寮文武庫司

○江御城

人皇百三代後醍醐天皇御宇長祿元年の築
源二後賴成十六代の後醍醐天皇御宇中興入道長祿元年の築
館にありこゝより左衛門佐持賢合道灌王後醍醐
天皇の地にて千代田宝田統といふ所をとりて
康正二丙子にこれに長祿元年丁丑四月八日巧匠の巧成
時より京都五山の万里和尚も持てこれにこれを移り
窓食西嶺千秋雪門豐東吳万里舞

此城より江繁花とていふ法事其言符合を尋て今
所乃准法といふ居城ありとていふ所を三年かゆり
所所成氏に屬を移してこれにこれを移り

上杉政理太正正の所にて扇谷信興といふ所にて定正と

と称民部太正正の所にて扇谷信興といふ所にて定正と

ある人の説にありて文明十八年に定正の所にて亡びしより定正

朝良二代の在城なり朝良二年にて上杉政理太正朝無居城

小田原の小原左京太正氏綱方水軍年にて上杉政理太正氏

氏保氏康氏政氏武氏四代小田原の屬一上杉政理太正氏

左馬前と稱代りて天正十八年小田原海軍一上杉政理太正氏

御當家と稱ししものより西上九の所にてこれにこれを移り
その後ありし御城よりすゝ万代不易臺なり市城也
見しとありしより市城の所より市城なりといふ
鶴といふ所より市城の所より市城なりといふ
とせむなり

○梅林坂
平河口の西なり

○梅板御門 太月示

文明年中太田原薩川越と云ふ所の天神宮を築く
と云ふ並あり梅樹をくちらと云ふ梅樹坂と云ふ
御入國の時貝塚にふる今花岡平河の天神なる

都入國の時、堀いづる。今、堀平河の戸神となり

○平河口臨門
びりけきよきふに思ふきふの降二音

なとありしとてしるかのまのふきかのぞ平河のふき

[illegible]

○御鷹鳥部屋 太月新

○紀伊國坂

ひしひしと尾紀の赤土を踏みしめる

○代官町
竹ちの内びへ文士やきあり

○馬場
何事あり

〇二里塚の跡
日下じーの二里塚ありと云ふの亦不知

○大下馬ヨリ南方并御舩端 東南西北

○和田倉所門
新の口の示西所丸のくく新所門し

○八代曾河守
とてりるゆきいゆふとて

ひーヤウス。ハチクワニカニ異人ニハニハニ

いふとヤヨウスに下るゝのゑとハチクワンと

又治容子河買成

○大名小治 ずとこし ぬきし ちふふのへず こし

虎の門 梅林坂 竹塙 是と云は内弘虎也竹と云

から今いひするに今七月廿日に本道とがひと
津田の屋敷のふちにある輪の海を引越来し
ありは驚きなり

○牛の淵 田舎の下の淵 ひー張つる車に
はふりして牛も車もつりあふなり

○半藏所門 板所へ出た門に びーはに服がまき
やとあり所物にその服のふりかたなり

○半藏山 赤坂の門の井掛の中なり
井掛のふちの井

○新慶所 井掛のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

はふりして井掛のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

く又井掛のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○横田所門 西のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○日比谷所門 さうのふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○馬場所門 日比谷のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○又不明 日比谷のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

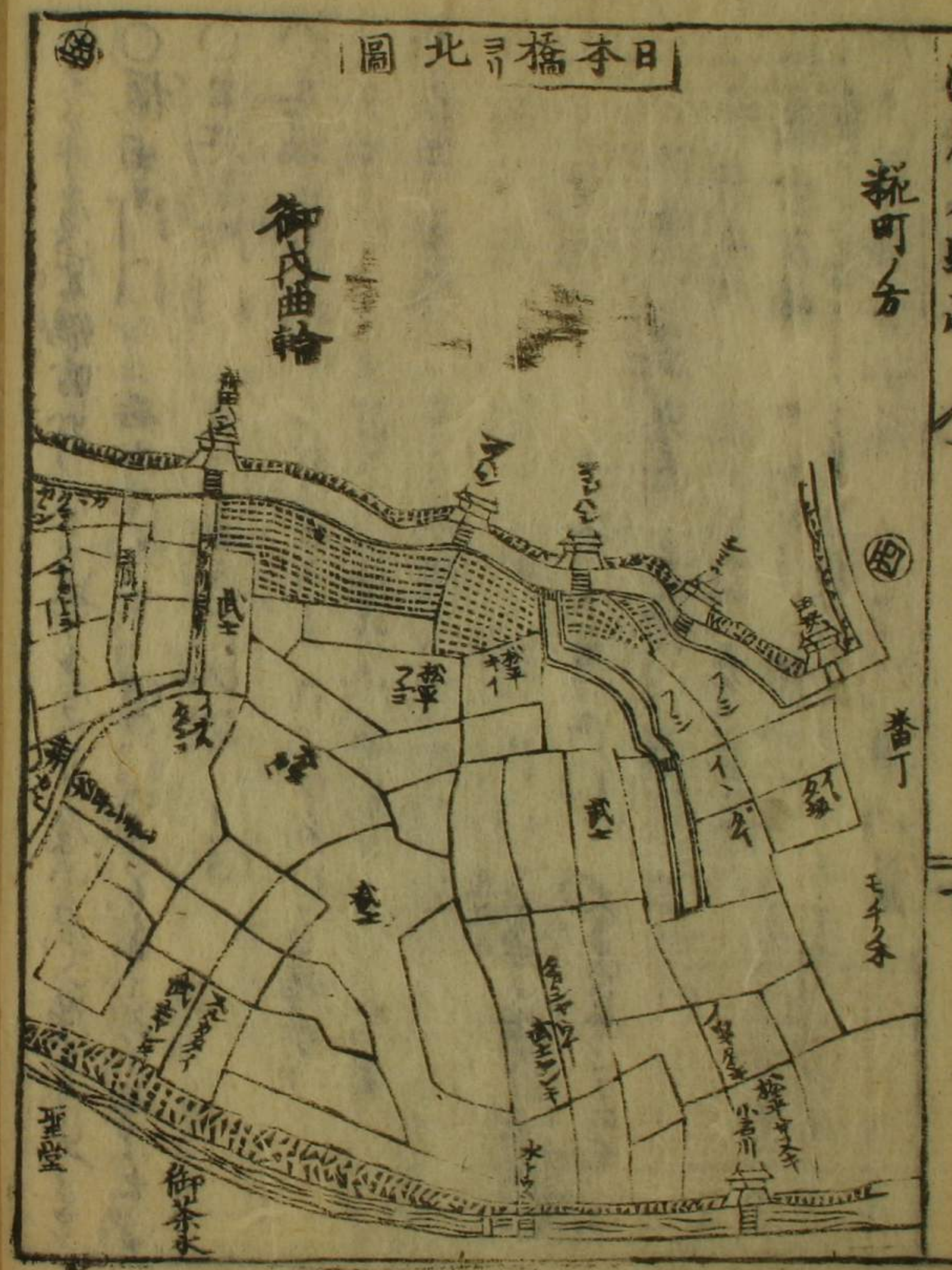
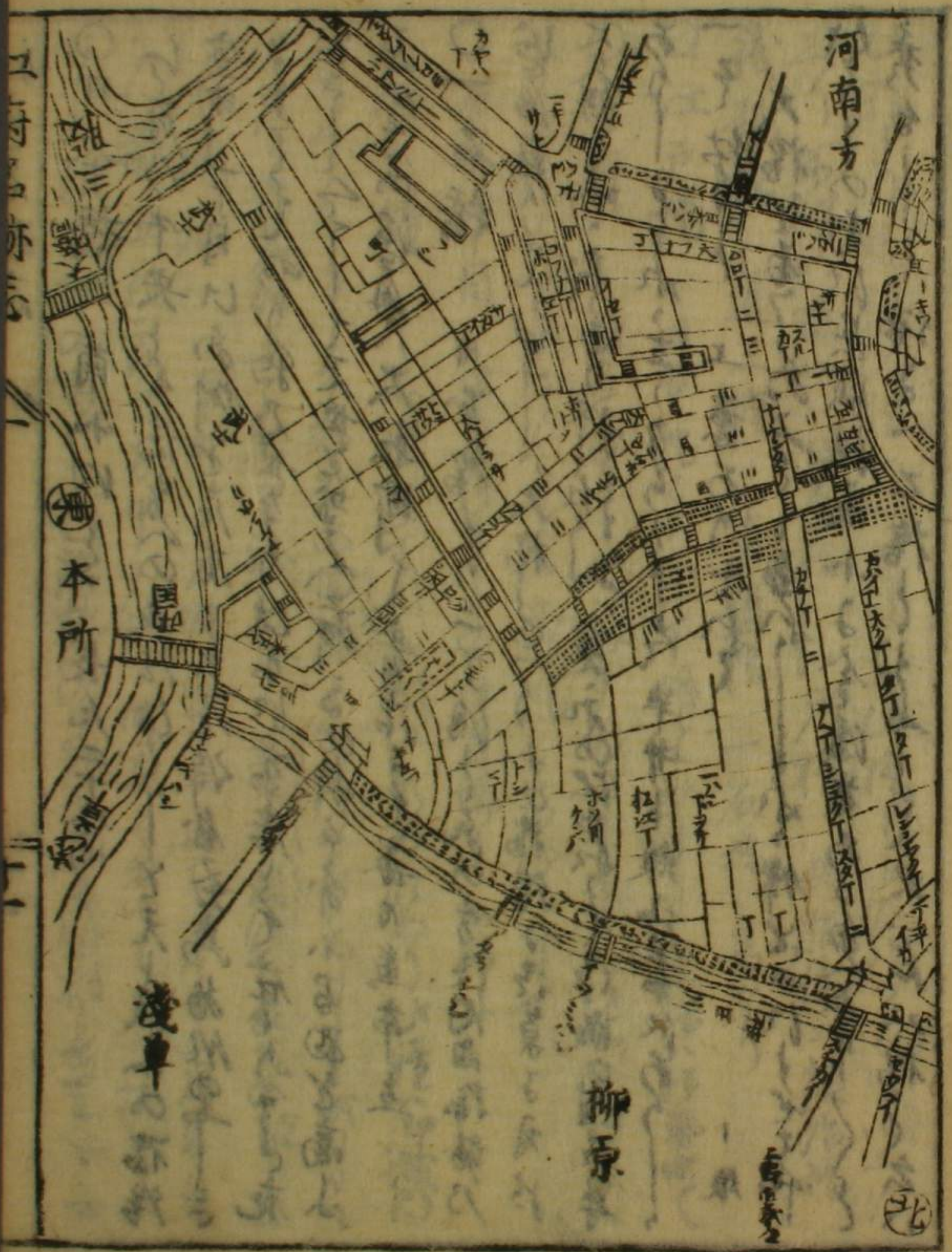
○救済所 日比谷のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○報治所 日比谷のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○兵服所 日比谷のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○町所奉行所 日比谷のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井

○御評定所 日比谷のふちの井のふちの
はふりして井掛のふちの井



○日本橋 南にけり 長九十八間

江戸府の中央と云はるる人のたははしと云へば此の橋は
室所一丁目には例と尼店と云尼持を全馬船のやうに
なすことしめり物と世にけり此の店とて花よりうき
と云へば一とて尺世と云へば所るの具と云へば小百物を高
束の方の江戸橋へ大船所へ着店とて毎日魚市立

○一石橋

日本橋より二丁目にありのち内曲橋乃
江戸橋よりしむ一石橋と云へば此の橋は子葉菓子月
大久保と云へば亭あり又江戸橋より実の比の江戸橋の所は
あり一とて水と云へば半井ト兼て水にあり
一とて休と云へば上意ありと云へ

大橋と云へばぬきと云へば一とて水と云へば
いふのむに長腹後長小子令後長ありと云へ
秀白一とて信子一石橋と云へば又一とて八橋と云へ

江戸橋より近頃の橋七つありけり橋ともいふなるは

江戸橋 日本橋 江戸橋 呉服橋 紙橋

紙橋 道三橋 半盤橋 一石橋 烏帽子

○江戸橋 日本橋より二丁目にありけり江戸橋の所は

○室所 いまむし一とて橋ありと云へば此の橋は

今に花と云へば一とての江戸橋と云へば

○本所 江戸橋より一丁目にありけり本所の所は

○時の鐘 本所三丁目にありけり此の鐘は

江戸橋より一丁目にありけり此の鐘は

江戸橋より一丁目にありけり此の鐘は

○十間店 本所と本所の間の大通りより三月節

市立の節のありけり○江戸橋の所は

市立の節のありけり○江戸橋の所は

○石所一丁目銀所 いそびし 福田村と云里と云所入

○浪所封疆 なみの 昨曆年中火除の日に焚きし

東西七所の石より今あると云所

○白旗福荷社 しろはた 福荷社 引高天香院 三雲院

○小傳馬所 せうでんば 六本木と云馬所と云

今此所の遺物のよりてと云所 備中と云

○囚獄 いご 小傳馬所 一丁目の中

御入の御いそと大板に天柱ありとのに遺物を捕はるに云

大番を石置りて云遺物のよりてと云所

○業師堂 しやうしどう 小傳馬所と云金屋と云所と云

ひし 法を東光院に云ありと云と云と云と云と云

○まの田橋荷 まのたはせ 小傳馬所と云引高天香院 三雲院

ひし 遺物のよりてと云所 備中と云

し 遺物のよりてと云所 備中と云

○馬場 うまば 小傳馬所と云ありと云と云と云と云

なり 園と云御陣の対馬橋ありと云と云と云と云

る 地と云と云と云と云と云と云と云と云と云

流る 高所と云と云と云と云と云と云と云と云

○橋本町 はしもと 小傳馬所と云と云と云と云

次 深川法禪寺と云と云と云と云と云と云と云

か 本所と云と云と云と云と云と云と云と云

し 穿所のありと云と云と云と云と云と云と云

○門跡井 かどい 小傳馬所と云と云と云と云

つ 門跡井の旧地と云

○天の洞藏 あまのどうざう 小傳馬所と云と云と云

う 洞藏のありと云と云と云と云と云と云と云

○茶研堀 ちやけんぼり 小傳馬所と云と云と云

○ 支堀 柳 ありと云と云と云と云と云と云と云

は 堀と云と云と云と云と云と云と云と云

は 堀と云と云と云と云と云と云と云と云

は 堀と云と云と云と云と云と云と云と云

は 堀と云と云と云と云と云と云と云と云

夕陽のさしける浪のうねりて船のまの月をみよき送休
なまふあけのつる月もたつすまふ秋の空を笑て
題三流月 月原——新いさらののつる川 高宮

○列の洞 三つまにありつとありめつるま

○濱岡城 古い新大坂町のまにむく城の海うし大和のれ
まらうの所をのりてつと一時的城のつる

○永久橋の跡 新大坂町の三つまにむく——はげえ橋のこ

○稲荷城 小あけの所をのりてつと一時的城のつる

○稲荷社 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○稲荷 小あけの所をのりてつと一時的城のつる

○稲荷 小あけの所をのりてつと一時的城のつる

○稲荷 小あけの所をのりてつと一時的城のつる

○親父橋 三つまにありつとありめつるま

○親父橋 三つまにありつとありめつるま

○わが橋 又太のつるまにむくはげえ橋のこ

○堺橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○堺橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○堺橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○堺橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○道常橋 太のつるまにむくはげえ橋のこ

○築波橋

と申すは築波所よりなる

○元吉系 系所 築波所 築波所の東方二町の
あるなり筑波のほむの小城曲輪の介敷し今大門をく
つてその河の大門口の通なり

○花所 花所 花所 花所 花所 花所 花所 花所 花所 花所
あるなり筑波のほむの小城曲輪の介敷し今大門をく
つてその河の大門口の通なり

○築波所 今世より所と云ふし筑波所をくあり
○照降所 小所 小所 小所 小所 小所 小所 小所 小所 小所
あるなり筑波のほむの小城曲輪の介敷し今大門をく
つてその河の大門口の通なり

○浮世小路 筑波所 筑波所 筑波所 筑波所 筑波所 筑波所 筑波所 筑波所 筑波所
あるなり筑波のほむの小城曲輪の介敷し今大門をく
つてその河の大門口の通なり

○芝居

中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村
あるなり筑波のほむの小城曲輪の介敷し今大門をく
つてその河の大門口の通なり

大じうの芝居にあり筑波のほむの小城曲輪の介敷し今大門をく
つてその河の大門口の通なり

田畑なりきりし今この田所をきりてはたき置りてせられし

○赤岩橋 三石所いなりに入谷の河のいなりあり

○佐竹屋 水田所い佐竹を系を更なりしこし天の順

ト谷いりる表門のありし松ノ門しはいりし

○丹後屋 松丹後を更なりしこりし内との門をきりし

こりいりしとて武士なりしとての大小立装の更なりし

男とみりし族なりし六はなる者と丹後屋より丹後屋の

中へ移りしなり

○相生橋 古所より相生橋の内いりしとて所のよりいりし

けし松平屋を更なりしとて表門のよりいりしとて

とす分はりしとてありしとてなりし

○節達橋 神田のよりいりしとて神田のよりいりし

○昌平橋 始ハ平洗橋よりしとて神田のよりいりし

聖堂をいりしとてなりしとて神田のよりいりし

○和泉橋 とて人のよりいりしとて神田のよりいりし

トとて神田のよりいりしとて神田のよりいりし

○新橋 つとてのよりいりしとて神田のよりいりし

○柳原封壇 とて人のよりいりしとて神田のよりいりし

○耕森桐荷社 柳原より下 別当 仁王院

とて人のよりいりしとて神田のよりいりし

○太田姫桐荷社 とて人のよりいりしとて神田のよりいりし

社説云太田乃薩のよりいりしとて神田のよりいりし

○八ッ小治 和泉のよりいりしとて神田のよりいりし

○駿河臺 元ハ神田のよりいりしとて神田のよりいりし

所入國のみより神田のよりいりしとて神田のよりいりし

とて人のよりいりしとて神田のよりいりし

とて人のよりいりしとて神田のよりいりし

○甲賀坂 ○皂角坂 ○胸突坂

○小川所 ○鷹馬坂 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

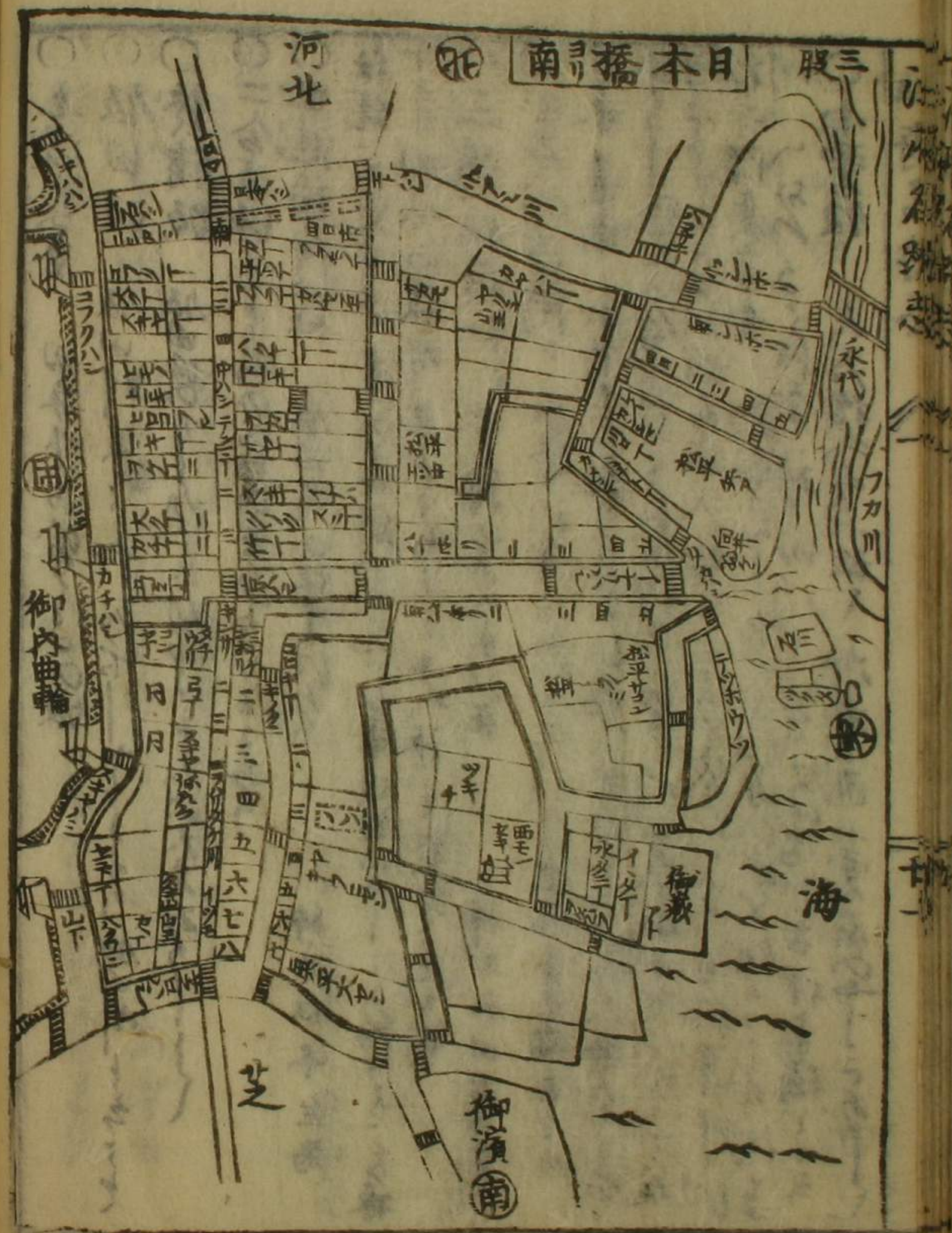
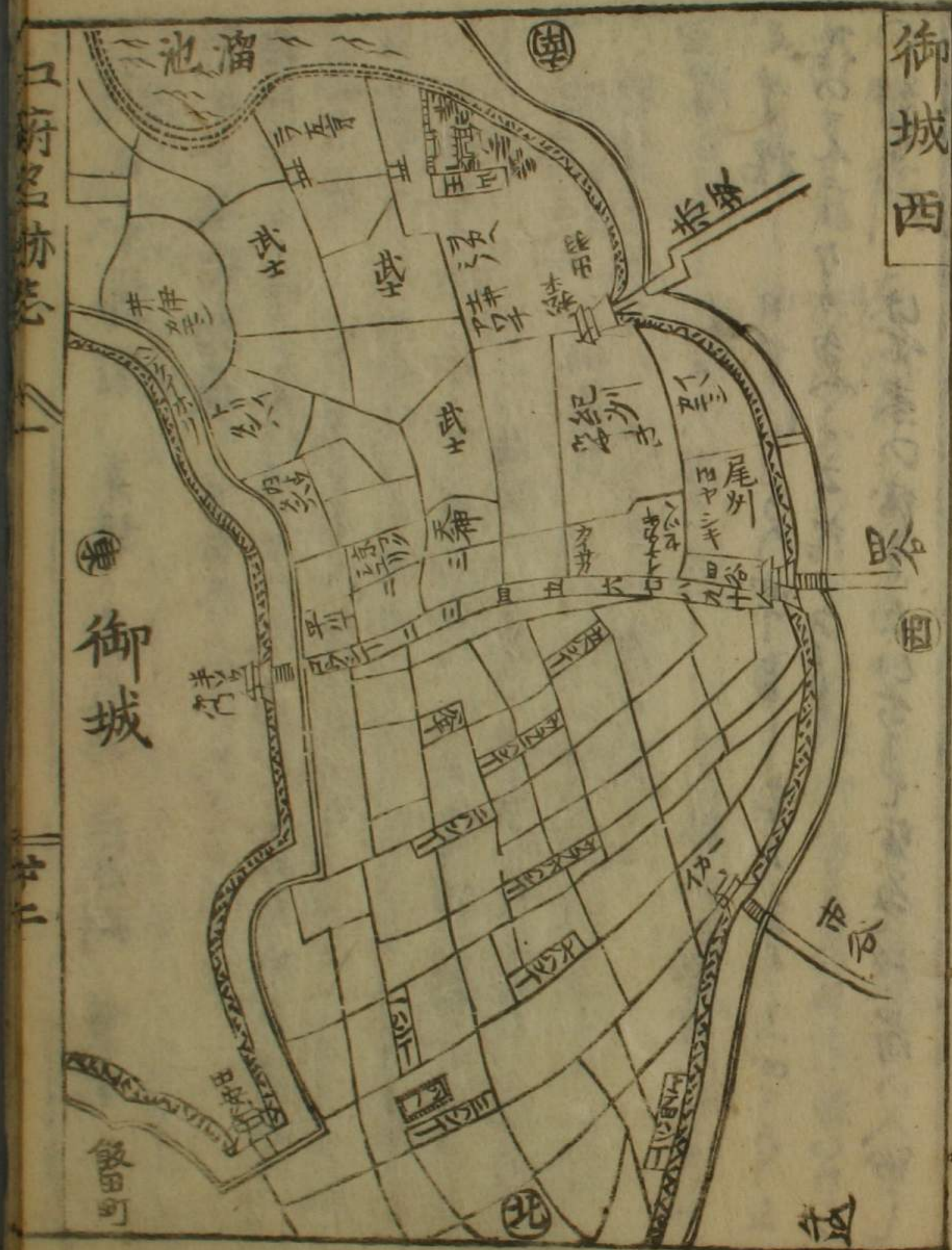
○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり

○小川所 市旗の所なり



三 日本橋南 茅場 貝敷橋 珠炮洲 築地

○日本橋封壇藏 日本橋と江戸橋の間の川を

根通と云ふ所を根通と云ふ根通は江戸の町を流る川

○四日市 江戸の町を流る川

○式部川 江戸の町を流る川

○赤坂川 江戸の町を流る川

○中橋 江戸の町を流る川

○紅葉川 江戸の町を流る川

○鷹橋 江戸の町を流る川

○小の川 江戸の町を流る川

○中橋 江戸の町を流る川

○鷹橋 江戸の町を流る川

○小の川 江戸の町を流る川

○中橋 江戸の町を流る川

○鷹橋 江戸の町を流る川

○小の川 江戸の町を流る川

○中橋 江戸の町を流る川

○鷹橋 江戸の町を流る川

○小の川 江戸の町を流る川

○中橋 江戸の町を流る川

○鷹橋 江戸の町を流る川

○小の川 江戸の町を流る川

○中橋 江戸の町を流る川

○鷹橋 江戸の町を流る川

○小の川 江戸の町を流る川

○中橋 江戸の町を流る川

○鷹橋 江戸の町を流る川

○京橋 大通筋より日本橋より八丁南 ○四ツ橋 京河筋沿

○玉木稻荷 寺町より稲荷坂の稲荷より 通年正位 神主 稲荷

○三手橋 片町より今吉町へ渡

○鶴林稲荷 水戸町土方より稲荷坂の稲荷より 通年正位 神主 稲荷

○二橋 八丁橋より水谷一丁の稲荷より 通年正位 神主 稲荷

○一橋 水谷一丁の稲荷より 通年正位 神主 稲荷

○住持太神宮 八丁橋の南 神主 出口市之進

○山王御成所 山王御成所の通年正位 神主 出口市之進

○宗師堂 額 宗師王堂 通年正位 神主 出口市之進

○天満宮 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○道波 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○甲 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○乙 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○丙 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○丁 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○戊 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○己 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○庚 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○辛 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○壬 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○癸 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○甲 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○乙 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○丙 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○丁 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○戊 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○己 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○庚 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○辛 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○壬 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○癸 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○甲 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○乙 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○丙 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○丁 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○戊 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○己 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○庚 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○辛 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○壬 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○癸 菅原神主親王の御成所より 通年正位 神主 出口市之進

○靈巖橋 深川を渡る所あり一里と云々寺社のあり

のくは所ありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○神明宮 長尾橋新川に在 伊勢内宮慶光院名也

修禊場内外の古きを新修す

○橋本相荷社 長尾橋 八幡醫王山を元院

○赤坂神社 長尾橋を中河 長尾橋の東にあり

○箱荷社 長尾橋を中河の東にありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○龜橋 長尾橋を中河の東にありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○高橋 長尾橋を中河の東にありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○箱荷橋 八所敷五丁目より長尾橋迄の橋あり

○箱荷社 長尾橋を中河の東にありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○石川橋 長尾橋を中河の東にありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○佃橋 長尾橋を中河の東にありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○住吉社 長尾橋を中河の東にありけは所の敷十八所ありけ内古きあり八所あり五所ありけは所の敷四のありけ松平を築き又友たやと云々橋を創りての年一と云々あり

○神代巻 伊勢諸尊往至筑紫日向戸橋之境原而被除焉遂

將湯滌身之所汚沈濯於海底因以生神號曰底津山童命

底筒男命 凡有九神矣其底筒男命中筒男命最筒

男命是即住吉大神矣下略 神書鈔 住吉之名神功皇后時

此神託后體而循行四方遂到攝列之地宜言曰真住吉

之國也因鎮坐其地名曰住吉下略 三日月男は神功皇后

をかくて信言せり云 △高社乃る處なるなり

此處に漁人ひく子孫に指別の者なりと云信言と勸告一氏計ん

○ト養老浦 鉄炮洲築せあり一町の裏に

いふやうにさし懸けの町なり

ト云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

○了然禪尼菴室 鉄炮洲内

はるばる、其樂余の此丘尼のり 紫一本曰是、東福門院福

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

と云ふはたしとてさし懸けの町なりと云ふはたしとてさし懸けの町なり

○西木願寺

築地 京都より輪番

元祖上人の如上人より一本寺なり。天正の頃、故より東西二流よりあるありと表門に於て、御入國のとき、浅草より一の門より寺に於て、賜ふ四層の塔あり。つらつら、あつたの海より、筑地より寺に於て、

塔中より分

称揚寺 善永寺 歟延寺 実相寺

○正寺

淨覺寺 法照寺 法重寺 淨立寺 法光寺

○成勝寺

善光寺 善久寺 西念寺 善照寺 又院寺

○善正寺

安養寺 真光寺 善光寺 又院寺 久安寺

○長宗寺

淨光寺 善光寺 福永寺 真光寺 淨念寺

○正法寺

應善寺 明西寺 延津寺 歟長寺 又源寺

○妙泉寺

正法寺 淨泉寺 正善寺 長安寺 貞光寺

○宝林寺

法福寺 万福寺 西照寺 万行寺 龜身寺

○正光寺

勝林寺 津法寺 光西寺 延聖寺 源正寺

○福祿寺

歟光寺 唯信寺 光德寺 又德寺

○紀伊寺

本振河一丁目紀伊寺、新島乃本

○新島場

同、五丁目、廣く、

○本振場

同、五丁目、三十間場へ、

○芝居

同、五丁目、森田、あつた、主結、

○汐留場

同、七丁目、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

○新島場

又、あつた、あつた、あつた、あつた、

四 櫻田 永田 赤坂 麹町 番所

○ 榎田
ふくし門 幸福の門より 虎渡門の所までの急急なり

風土記殘卷
号櫻田者以其郷之岡及野櫻樹多也

じしハ橋本の多くありしをなり薩東部よりなり
今ハヤとんと此部内なり

今ハヤムキヲ部内ナリ

○山下海門 又非橋 飛江門と云 又依よ 龍橋門と云し之ハ
龍橋の中一と云ふ所ありて之を云ふ人

又様并々と云
山下門と幸指の事云々

大姫ヶ井 中ノ姫沙門とて之ヲ捨ててさよふ一年

白身主事 洪公井中 古為之 入之 聖之 公

井のうをうびうた業のんをうてう

なきては、
とて事あるを
ふといひ

个
て
水
色
深
く
な
る
を
見
る

○封の井 とうの心 不不伴

此亦一一以空觀法所作也。又云。思心乃成。乃成。

○白糸の滝
松平定房公家御一きりあり玉川をさぐりて

今一界も程白糸のつるを流す水の如く

文古奇 卷之八

○湖尺坂
松平周防ちと松平純元ちとの局の娘と云

○柞の井
松本主佐の墓なり

○霞の関
松平安永寺と松平以清寺と
了るる所

書面より、案ずるに、古に奥へ、のほ還なりとあり

あふく、空の雲。水雲の心をきく。あひま、雲をきく。

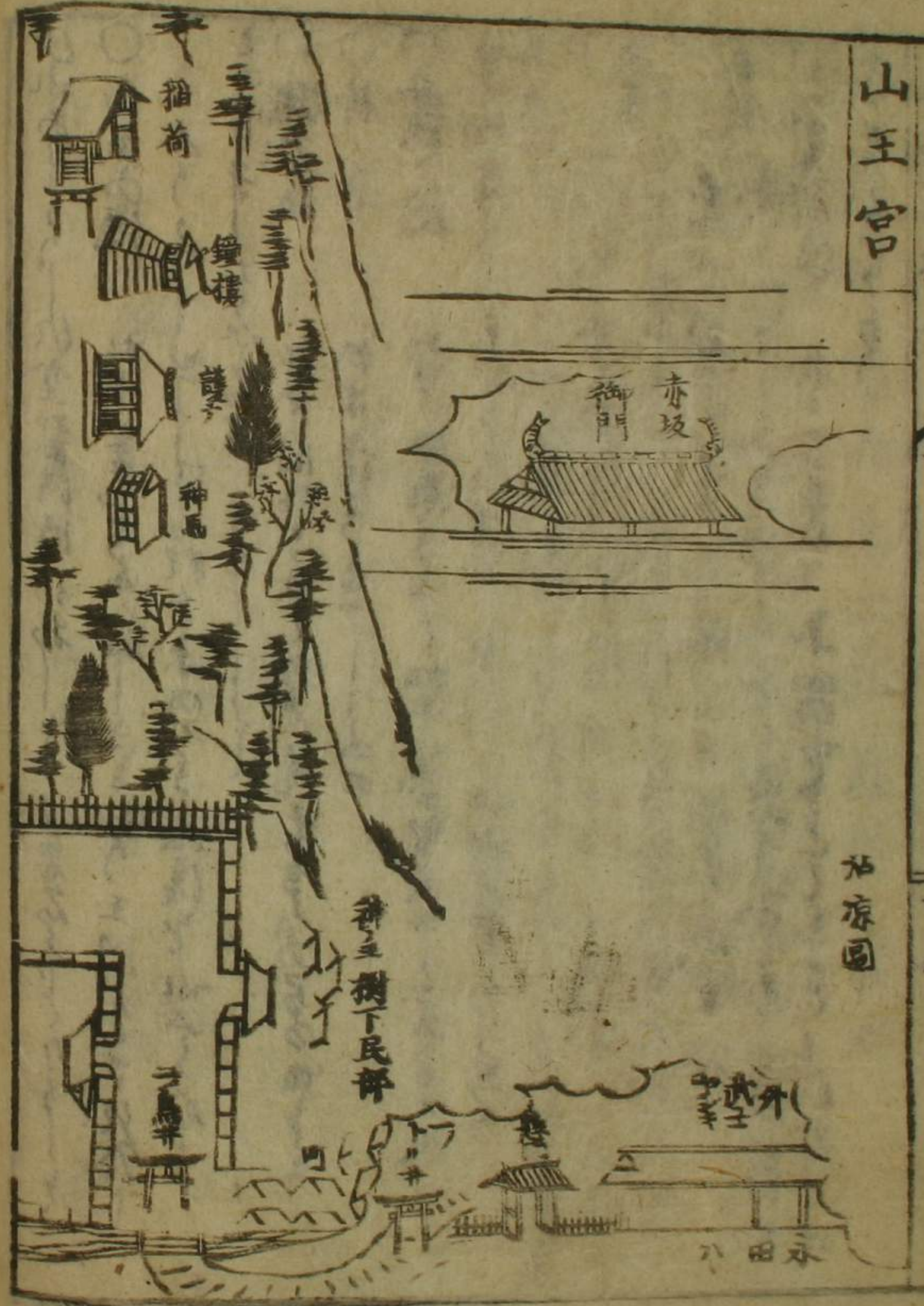
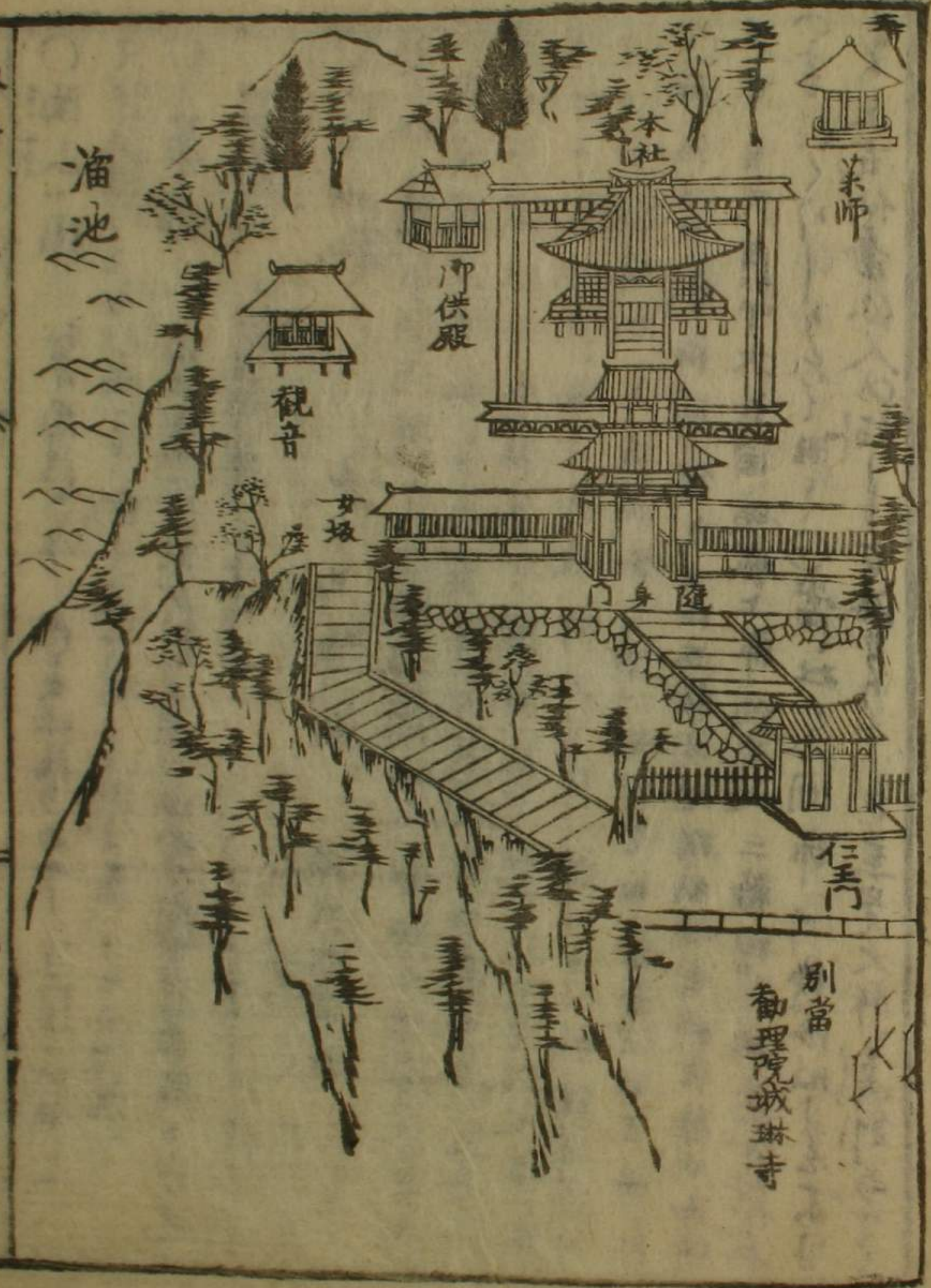
[illegible]

去冬より来つくと云々

國のうけきしを承とらふくありまのふみありきと
仙那神廟

名所方角趾而段実
ぬきふきあり 東の西のまじりてふしん ぬきふきあり

な、とてゝとあり



山王宮

山王宮

山王宮

山王宮

○陶工園

松平國清公と内儀佐渡守殿中へとの取

又涉險境

公以坂を倒すと云ふは死と云ふは僅に

○ 聖訓

永田氏の所蔵なりと云ふ不令、永田重三郎名やまのり

○聖野云

と主権のをふ

○山王神社

永田馬場に在

神从六百石

祭神 近州日吉神社（神社啓蒙） 日所祭神七座大宮大宮貴人
二宮國常立尊神皇產靈尊聖真子正哉吾勝尊八王子同
狹狹尊客人伊弉冊尊十禪師瓊杵尊三宮惶振尊石
本宮七社也所屬十四座然上七座稱二十一社（延喜式十曰）
近江國滋賀郡日吉神社（神天同三名神）祭神云日吉神社
一座注云比叡神同傳記云山王權現者磯城嶋金刺宮欽明即位
元年自天降于大和國磯城上郡而現大三輪神（下略）其不（下略）
の事（下略）○當社八人同部川幾。弘收（下略）云云
あり上古仙臺仙人の祠（下略）古跡あり（下略）を意味大所なり（下略）劍あり（下略）

星野山益量寺と号し天台乃其地として山王を勧誘せられ
中後尊海僧正中興一三十九余院覺をなすなり今寺坐百石
天皇百三代後花園院長祿三年に太田乃權に城築の後赤事中
仙波村星野の山王を勧誘ありに城の産土神といふ地
今の紅葉山なりと云延徳年中に城西乃貝塚といふ處
に地味秀所門の外なり明暦の後永祿三年に溜池のうへ
うへうへ一是今の社地なりは地味秀の兄に松平主政がなりとの地
なりなり今に本を星野といふと云ふと云ふに都方一の大江山神教
してそのも并五十之段の石階に柏投をうへる所なる
今此御嶽中産土神にて所建立の地なり

勸理院

社僧

秀城院
智光堂

成孰院

宝善院

長安院

福聚院

神主

生

小川

平勝主水

千勝宋文

金元

樹下民部

社家

宮西來母

朱主膳

諸井

巫女

左道

土佐

伊賀

一乃を井ハ丹羽左京亮の井一との例にありけり
山王の神社林舞の御ありしつり赤坂今井の赤坂の下に
ありて美景なり寛文十二年下台弘文院春齋を和記の所

其日應丹羽拾遺之招賦庭前即景弘文學士

廣進礼畢到斜陽日吉新宮隔水望
二本松堅千里緑森々其木一庭牆

△當社祭礼六月十五日隔年ならに都方の大後方なり

○梅井井伊掃部左衛門の下にあり後九尺とあり
石垣の組あり奔る新井とありなり御車三つ並に

○妹園池をならしむる不詳

○寂淵井をゆるぎのこいありと云○計保光探所六所の

○貝塚古墳の所のありしむいそいそと云
昔ねるなりありと云

○貝坂下町目黒の奥の貝坂はありぬるありし

○平河天神宮 精明の裏南子 別當長松山龍眼寺

小野神社 文治十年六月十五日入間郡川越二宮を

より平河小平河の古田を薩部治ありては城の北邊に

て毎年二月廿二日菅原神子親王の御祭あり

世俗云當社の神神ハ初五古昔の御祭ありと云

孝子風をかしきと云いぬるあり古語を以て

敬とありしは神風をとりて子雲のありと云

そけ聖堂の敷地は親王の御祭ありと云

神法より風をとりて子雲をとりて子雲のありと云

風をとりて子雲をとりて子雲のありと云

をとりて子雲をとりて子雲のありと云

はとりて子雲をとりて子雲のありと云

ひさしのみうー聖二一の所ありて万も一をふありけれ
に因くあるは丁のふとふとあり

此社の木の所を子獸をひくくありてその中をさすくまうー

○赤坂御門 此所を赤坂と云 青の坂谷へのたふあり

此御門乃かゆへ北才般の連渡すに所城より乃所門と云

○玉川滝 松平出陣の所なりーまふあり水より玉川のふんれり
とふハ滝池へあつたり

○新築御所 大のふーさいあり ○石井小治 堀所三所同あり
此所三所同あり

○清谷 紀州清谷と云ふと井は家の中なりーまふあり

○清久坂 尾州清久坂の所門ありの所なり

○柳の井 清久坂乃下の井あり

○土橋 清久坂より紀州清久坂あり

○増上寺 舊地 びーー光寺と云ふと土橋の邊にありー

○常栄心法寺 淨土 赤坂浄土寺 寺中貞松院と云ふ院 親断ナリ

○村高山栖岸寺 同宗 同末 同六丁

○常仙寺 曹洞宗 四谷童昌寺 同六丁

○猿渡山善国寺 法花宗 池上末 同三丁

○金子場 金寺寺跡と云ふ 古跡あり日花所門のふ、戦後さ長つ

○番所 東西十丁 南北十丁 四谷門市谷門牛の所門の番所外曲線の
心なり云此所旗なりと云ふなりー一番所より六丁番所なり
知りー入組なりー

野馬をうむで番所なりー 冬米田賀朝

